



農林水産大臣賞典 メイセイオペラ記念 第29回 マーキュリーカップ (Jpn III)

盛岡競馬場 3歳以上オープン・ダート2000m

7月21日(祝月) 18:15発走

創設は1997年。第1回から第3回まで水沢2000mで実施され、第4回以降は盛岡ダート2000mが舞台。2017年以降、メイセイオペラ記念の副称が付記されたのは、第2回マーキュリーカップを圧勝し、後にGⅠ3勝をあげた“岩手の雄”に敬意を表するため。昨年はクラウンプライドが優勝。コリアカップ(ソウル)2連覇の偉業達成につなげました。

【注目馬情報】

★クラウンプライド 牡6歳 新谷功一きゅう舎・栗東

昨年、かしわ記念12着から参戦。1番人気はメイショウフンジンに譲りましたが、超ハイペースの中、2番手を追走。ゴール前一杯となりながら後続の追撃をしのいで優勝。国内では初の重賞制覇を果たし、コリアカップ2連覇の偉業達成につなげました。韓国から帰国後はチャンピオンズカップ11着、東京大賞典7着から佐賀記念へ遠征。メイショウフンジンに6秒2差の大差8着が気になりますが、以降は体調回復に専念しました。盛岡ダート2000mは3歳時・JBCスプリント2着、昨年マーキュリーC1着と相性抜群。勇者の復活を目指します。

★セラフィックコール 牡5歳 寺島良きゅう舎・栗東

3歳2月のデビュー戦を快勝後、圧巻の5連勝。GⅢ・みやこステークスも制した逸材。続くチャンピオンズカップは相手が強く10着に終わりましたが、ダイオライト記念を0秒8差で圧勝しました。以降3戦は5着最高。G/JpnⅠの壁は厚かったようですが、今年3月、ダイオライト記念2連覇を果たしました。評価に迷うのは名古屋グランプリ6着ですが、水の浮く極端な不良馬場も敗因か。左回り、コース広い盛岡に替わって首位を奪回。

★ディープリボーン 牡5歳 四位洋文きゅう舎・栗東

デビュー2戦目を勝ち上がり、着実に地力アップ。これまで12戦5勝2着3回。前々走は重賞・プロキオンステークスへ挑戦して8着でしたが、前走・ブリリアントステークスで競り合いを制し、ついにオープンの壁を突破しました。マーキュリーCとブリリアントSの連動性は高く、近年では2020年、マスターフェンサーがスレイブニルS2着をはさんで優勝。実績馬が58キロ以上を背負うのに対し、54キロで出走できるのが大きなアドバンテージ。マーキュリーCを制し、秋のビッグレースへのステップを作りたいところでしょう。

★カズタンジャー 牡4歳 新谷功一きゅう舎・栗東

2戦目からダートヘシフトして4勝2着3回3着6回。近走は徹底した追い込みに徹し、2勝2着1回3着1回と充実一途。前々走はダート2100mで驚異の上がり34秒5の脚を駆使して一気突き抜けました。続いてスレイプニルステークスへ駒を進めてアタマ差2着に敗れましたが、オープンクラスでも通用を証明。ペースが速くなれば自慢の切れを存分に発揮しそうです。

★ライトウォーリア 牡8歳 内田勝義きゅう舎・川崎

中央ダート5勝から2022年8月、川崎へ移籍。南関東重賞3勝からJpnI・川崎記念で鮮やかな逃げ切りを決めて優勝。2024年度のNAR年度代表馬に選出されました。以降は勝ち星から遠ざかっていましたが、前走・大井記念を快勝。久しぶりの勝利を飾りました。JpnIホースのため59キロのトップハンデを背負いますが、復活しての参戦が何よりも心強い材料です。

★メイショウフンジン 牡7歳 西園正都きゅう舎・栗東

地方ダートグレードを主戦場に走り続け、今年2月に佐賀記念を快勝。重賞挑戦14度目にして悲願のタイトルを獲得しました。またマーキュリーカップへ過去3度参戦して7、3、8着。4年連続で出走します。昨年は1番人気に支持されましたが、ヒロシクンに出鼻を叩かれて8着。今年こそ雪辱を果たしたいところでしょう。

★ヒロシクン セン6歳 佐藤雅彦きゅう舎・水沢

昨年、中央1勝クラスから転入。B1級3連勝から一條記念みちのく大賞典へ挑戦し、鮮やかな逃げ切り勝ち。その後も青藍賞、トウケイニセイ記念を制して4歳以上最優秀馬に選出されました。今季は赤松杯から始動。年度代表馬フジュージーンとの初対決を制して優勝。続くシアンモア記念でもフジュージーンの追撃を封じました。2連覇を目指した一條記念みちのく大賞典は3歳リケアカプチャーノにハナ差2着に屈しましたが、驚異的な粘りを披露。岩手の大将格として健闘を期待したいところです。

★マルカイグアス 牡4歳 橋本忠明きゅう舎・園田

園田・新馬戦を完勝し、4戦目に重賞・園田ジュニアカップを優勝。3歳時には兵庫優駿を含めて重賞3勝をマークしました。今季は2、4着止まりでしたが、地方交流・六甲盃を1秒5差で圧勝。好ムードで遠征します。ダートグレード初挑戦でどのようなパフォーマンスを披露するか注目。

文／松尾 康司